

～標 sirushi 証 akashi プロジェクト～

作成年月日

平成25年 2月15日

◆取組市町村・団体名

◎宮城大学 マイチゼミ
仙台市泉区

◆取組地域

仙台市泉区（N T T仮設住宅） 他県内の仮設住宅

◆キーワード

地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

同じような造りの仮設住宅の敷地で迷子になる入居者がいるという相談を受けたことがきっかけ。表札（標し）が自分の証となるよう一緒に表札作りしながら交流を深めていくことを目的としている。

◆取組内容

泉区での取り組みについては、別紙活動報告のとおり（経費の一部を仙台市が助成）

◆問い合わせ先

仙台市泉区まちづくり推進課
372-3111（内線6132）

「ハウスマークプロジェクト」中間報告書

～鶴が丘NTT社宅の被災者仮住宅の事例を中心に～

1. 概要

宮城大学伊藤真市研究室では、平成23年6月より「ハウスマークプロジェクト」という震災復興支援活動を行っております。仮設住宅に住んでいる方々の依頼要望にあった表札のデザインを制作し無償でプレゼントするという活動で、「高森カーサズ」という地域で活動する主婦の震災復興支援団体から、表札制作ができないかという相談依頼を受けたことがきっかけで始まりました。学生のデザインを集めた専用カタログから選んでいただく他、要望があればその都度対応して製作いたします。表札に使用する板は、仙台阿部蒲鉾店様から蒲鉾板と、もくもくランド様から木材を無償で提供していただいております。表札は専用フィルムにデザインをカラープリントしたものを木材に貼りつけて制作し、研究室生がデザインした包装紙に包み、シールを貼り付けてお渡しいたします。なお、平成23年6月から平成23年10月までは、もくもくランド様からは木材の端材を無償で提供していただきましたが、平成23年11月からは加工されている木材を購入しております。

以下、この活動の中の鶴が丘NTT社宅(宮城県仙台市泉区鶴が丘1-23-5)の被災者仮住宅の住民の方々を対象とした活動報告をいたします。

2. 活動記録

1) 平成23年10月19日

鶴が丘団地町内会長の小林國男様のご自宅に伺い、NTT社宅の現状確認と当プロジェクトの概要を説明しました。

その際、今までに制作した表札のサンプルや製作現場の様子、実際に仮設住宅で使用されている様子をパネルにまとめたものを小林様にご覧になっていただきました(右写真)。



そして、小林様が当プロジェクトに全面的にご協力いただけることになり、住民の方々に対して、表札の作成希望者を募るお声掛けをしてくださいました。

(NTT社宅内にある掲示板に当プロジェクトの説明書きと直接住民の方々がお名前や部屋番号を書き込める掲示物を掲示していただきました。)

2) 平成23年11月7日

小林様のご自宅に伺い、再度当プロジェクトの今後の段取りをお話ししました。この時点では、6件の表札作製の希望をいただきました。また、小林様から新しくNTT社宅の一室(313号室)をその社宅の集会所にするというお話があり、その集会所の名前を考えてほしいとのご依頼を受けました。その後、直接NTT社宅へ現状調査のため訪問しました。その際、表札作製希望者の方にご挨拶と表札のデザインの希望を伺いました。

3) 平成23年11月13日

小林様が鶴が丘団地の集会で住民の方々に当プロジェクトの概要を説明する機会を設けてくださいましたので、その集会にお伺いしました。その際、表札のサンプルをご覧になっていただいたり、パネルを使用して当プロジェクトの概要を説明しました。この説明により、住民の方々にご興味を持っていただき、新たに8件の表札作製のご注文をいただくことができました。

4) 平成23年12月9日

小林様のご自宅に伺い、表札作製のご注文をいただいた方々の表札をお渡ししました。

また、12月11日に行われる集会の予定をお伺いし、その際に直接住民の方々に表札をお渡しすることに

なりました。

5) 平成 23 年 12 月 11 日

NTT 社宅の集会所(313 号室)で行われた集會に伺い、表札作製のご注文をいただいた 14 件のご注文分の表札をお渡ししました(左下写真)。そして、新たに 8 件の表札作製のご注文をいただきました。また、私たちの方で集会所(313 号室)の名前の候補をいくつか挙げたところ、住民の方々の意見により「ふらっと」に決定しました。また、表札は玄関先のプレートにお掛けすることにしました。(右下写真)



6) 平成23年12月29日

当プロジェクトを河北新報の記事に載せていただけることになり、住民の方々への取材に同行しました。この取材は、鶴が丘団地町内会長の小林様と住民でNTT社宅地区(鶴が丘10地区)長になられた須藤富夫様と戸田和子様と河北新報泉支局の片桐大輔様がお話しを伺っておられました。 7) 平成24年1月22日 NTT社宅の集会所(313号室)で行われた集會に伺い、表札作製のご注文をいただいた 8 件のご注文分の表札をお渡ししました。また、集会所の表札「ふらっと」のデザイン案を住民の方々にお見せし、ご意見をいただきました。

3. 今後の活動予定

1) 集会所の表札「ふらっと」のお渡し

詳細な日程は決定していませんが、できるだけ多くの住民の方々に集まっていただき、その場でお渡ししたいと考えています。

2) 表札の作製

現在、鶴が丘NTT社宅では22件の表札作製のご注文いただきお渡ししました。今後新たにご注文をいただける場合、作製しお渡ししていきます。

3) 親睦会

この度、鶴が丘NTT社宅の住民の方々には大変ご厚意にいただき、私たち自身も成長することができました。今後もこのコミュニティを絶やさないためにも住民の方々と親睦を深めることができればと思っています。

4) 学生団体「One Second Project」との連携

宮城大学の学生団体「One Second Project」と連携を取り、他地域の仮設住宅に表札をお渡しするという計画の準備を進めています。



留学生と住民との交流イベント

作成年月日

平成25年 2月12日

◆取組市町村・団体名

◎仙台国際交流協会
一般社団法人パーソナルサポートセンター

◆取組地域

NTT 角五郎第二社宅・東北財務局川内住宅（借上公営住宅等）

◆キーワード

地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

仙台国際交流協会は仙台市在住の留学生を「せんだい留学生交流委員」として委嘱しており、外国人住民支援や交流事業実施など、様々な活動への協力を得ている。本活動は、外国文化の紹介を通して仮設住宅や地域のふれあいを深めることを目的として、交流委員の自主企画として実施された。

◆取組内容

概要

仙台市青葉区にある仮設住宅の住民を対象として、2012年9月に各住宅1回ずつ、計2回実施。

1回目は、ブラジル及びバングラディッシュ出身の留学生が、2回目はリビア、韓国及びマレーシア出身の留学生が主体となってイベントを行った。留学生同士がアイデアを出し合い、各国のあいさつの仕方や料理、文化などを紹介。また、一緒にゲームをするなどして住民と交流を深めた。川内や角五郎は東北大学から近いので留学生が多い地区だが、住民の方々は、留学生も地域の一員として受け入れ、楽しい時間を共有することができたようだ。



成果

留学生の出身国の文化を紹介し、住民の方々の国際理解の推進を図る機会となった。また、大人も子どもも、日本人も留学生も、同じ地域の住民であるということを再認識し、一体感の醸成が図られた。

留学生にとっても、身近に被災した人が住んでいる、自分たちにもできることがあるということ、この取組みを通じて気づくことができるものとなった。

◆問い合わせ先

仙台国際交流協会（022-265-2480）

仮設住宅周辺の環境美化事業 (仙台市被災者交流活動助成事業)

作成年月日

平成25年 2月15日

◆取組市町村・団体名

◎鶴が丘一丁目町内会
仙台市

◆取組地域

仙台市泉区鶴が丘一丁目 10 地区 (NTT 社宅被災者仮設住宅) 及びその周辺

◆キーワード

地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

環境美化活動には、他の町内会活動よりも仮設住宅にお住まいの皆さんの参加が多いことから、これを充実・拡大してコミュニティづくりのきっかけとすることにした。共同の作業やその後の反省会により、仮設住宅にお住まいの方同士や地元の町内会からの参加者との間の交流を深めることを目指した。

◆取組内容

概要

6月から11月の間、月1回(毎月第3日曜日)の町内一斉清掃で、仮設住宅にお住まいの方、町内会会員が共同で仮設住宅敷地内および周辺道路、近隣の鶴が丘東公園の清掃、除草、花の植栽等を実施した。活動後にはお茶を飲みながらの反省会・懇談会を行って、交流を深めた。(活動資金の一部を仙台市が助成)

効果・成果

他の町内会の行事に比べ、かなり多くの皆さんが参加してくれた。これは、日曜日早朝という時間設定で参加が比較的容易なこと、自分自身の住まい周辺の環境整備ということで関心が高かったことなどが理由と思われる。ともに汗を流し、作業中、作業後にちょっとした会話を交わす中で、仮設住宅の住民同士や町内会会員との交流が深まり、有意義な時間となった。

課題

・他の行事よりは多いとはいえ、期待したほど参加人数が伸びなかったのは、周知の仕方が十分ではなかったからかもしれない。今後は、回覧やポスターだけではなく、地区長や班長などからの声掛けを徹底したい。

・事業計画や準備・後片付けまで仮設住宅住民自ら主体的に行えるようになると、さらなる交流の深化が期待できる。

今後の取組

冬期の一斉清掃休止期間終了後、より充実させた形で事業を継続させていきたい。

◆問い合わせ先

仙台市泉区まちづくり推進課
(TEL022-372-3111 内線 6133)

被災地の子供たちに遊び場を！

「コドモ×アソビ＝ミライ」未来を担う子供たちに安全で楽しい遊び場を。
大型遊具のある遊び場を中心に コミュニティ再建。

作成年月日 平成25年 2月 2日

◆取組市町村・団体名

◎プレイグラウンド・オブ・ホープ <http://playgroundofhope.org/home/>

◆取組地域

気仙沼市： 鹿折復幸マルシェ（画像 A 参照），キッズ ROOM おひさま
石巻市： 南境第 7 仮設団，ピノッチオ保育園，さくら公園
その他は宮城県外

◆キーワード

子ども・地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

- アメリカの屋外遊具メーカーや NPO, 多くのボランティアの協力を得て, 東日本大震災の被災地に大型遊具つきの子供の遊び場を作るために立ち会あげたチャリティ・プロジェクト。
- 「コドモ×アソビ＝ミライ」被災地での子供の遊び場不足の問題は深刻。将来の復興を担っていく現在の子供たちが子供でいられるほんの短い間, のびのびと遊ぶことでパワーアップして欲しいと願っています。
- そこに集まってくる大人同士の交流も始まり, 地域コミュニティの再建に役立つことも期待します。

◆取組内容

対象 主に津波の被害で子供たちの安全な遊び場が不足している地域（福島県や岩手県も対象）

頻度 これまでは月 1 箇所程度。スピードアップを目指しています。

実施内容

- 遊び場を作る（遊具を設置する）スペースは, 私有地でも仮設住宅の一角でも, より多くの子供たちがアクセス可能な場所を探します。同時に寄付金を援助して下さる「寄贈者」を探し, スペースと寄贈者のマッチングをします。寄贈者が決まれば遊具を設置します。数年間の一時的な利用であってもよいと考えます（子供が子供でいられる時間は本当に短いからです!）。また, この遊具はユニット式なので, 大きさを変えたり, 移設できることも大きなメリットです。
- 遊具はアメリカのメーカーと交渉の末, 被災地特別価格契約を結んでおり, この破格のディスカウントはプロジェクト実現の大きな要因です。オバマ大統領がホワイトハウスの庭に選んだものと同じ高品質なブランドです。鮮やかな黄色でひまわりが花開いたように周囲が明るくなり, 人目を引きます。
- プライベートなスペースでも, なるべく多くの子供たちに開放していただけるよう工夫をお願いしています。例えば, 老人ホームの庭の一角に作った遊び場は日中は一般開放してもらい, 地域の子供たちが遊べる貴重なスペースとなったため, 近くの小学校の先生方から閉門時間延長のリクエストをいただきました。
- 鹿折復幸マルシェや南境第 7 仮設住宅は, 近隣のみなさんや NPO が遊具を中心に花壇（画像 B 参照）やベンチやあずま屋を作って下さり, 素晴らしい憩いのスペースになりました。マルシェは少し離れた幼稚園が通園バスごと遊びに来てくれるほどの人気スポットになりました。
- 仮設住宅には特に設置させていただきたいです。お子さんたちだけでなく, そこに集まってくる親御

んたちや地域の大人たちのコミュニケーションの場になり、新しい地域コミュニティの再建にも役に立てると思います。お年寄りが集まれるようにベンチなども設置したいです。

●南境第7仮設団地での活動のドキュメンタリー動画 <http://www.youtube.com/watch?v=RTj09feI24U>



◆問い合わせ先

プレイグラウンド・オブ・ホープ

(TEL:03-3583-0080, 携帯:090-4526-1185,

Eメール:taeko.anop@playgroundofhope.org)

スポーツを通じ、被災児童や障害者、高齢者などを支援！

作成年月日

平成25年 2月 8日

◆取組市町村・団体名

特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター

◆取組地域

石巻市

◆キーワード

子ども・障害者・高齢者・地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

「いつでも、どこでも、だれでも」スポーツを楽しめるまちづくりをめざし、地域の子ども達や障害者を対象としたスポーツプログラム等を実施することで、スポーツ弱者への支援や高齢者の孤立防止に取り組んでいます。震災後は、被災児童対象のスポーツ遊び提供事業や被災児童に運動具を贈る活動、仮設住宅入居者参加の交流事業を実施し、被災地復興と地域活性化に取り組んでいます。

◆取組内容

対 象 被災した児童及び知的障害者、仮設住宅入居者

頻 度 児童支援 市内の幼稚園、保育所等約70か所でスポーツ遊び提供事業を実施。

障害者支援 週1回のサッカー練習及び年4～5回の遠征試合を実施。

仮設入居者支援 カラオケ教室を週2回、吹き矢教室を平成25年1月までに13回開催。

仮設入居者を対象とした「SMILE（スマイル）運動会」を開催。

※ SMILE運動会

Shine（輝き）Memory（思い出）Ishinomaki（石巻）Love（愛）Everyone（みんな）

実施内容

◆ 被災児童支援

「わんぱくスマイルプログラム」

避難所生活等で体を動かす機会の少ない子ども達に少しでも喜んでほしいと考え、スポーツ選手等を招いての手づくりスポーツ教室（ダグラグビーで遊ぼう、サッカー教室、ドッジボール等）を開催するなど、スポーツを楽しむ子供達の元気を応援しています。

津波の被害を受けた小学校校庭でのキックベースボール大会では、100人を超える子ども達が参加し、元気にグラウンドを駆け回っていました。

また、こども自ら動いてもらうことをコンセプトにして、幼稚園や保育園などに出向き、被災した子どものケアを兼ねたボール遊びプログラムを行っています。一人に一つのボールが行き渡るように準備するなど、子どもらが楽しんでプレイできるように工夫して取り組んでいます。

「わくぱく復興プロジェクト」

震災で運動具や運動着を失った子ども達に、自らの意思で楽しみながら自由に身体を動かしてもらおうと考え、全国に支援を呼びかけ、集まった支援により学校を通じて被災した児童に運動用具（運動着、サッカーボール、ドッジボール等）を提供しています。

◆障害者スポーツ支援

これまで、知的障害者を対象とした総合スポーツクラブ、障害者マリンスポーツ体験事業を実施し、多くの知的障害者がスポーツに親しむ機会を継続して提供してきました。しかし、震災のために安全な砂浜が確保できず、重度障害者等も楽しみにしていた年1回のマリンスポーツ体験事業は休止しています。

週1回のサッカー練習は震災後も継続しており、毎回15～6人が参加し仲間とサッカーを楽しんでいます。また、年4～5回サッカー試合の遠征を実施するなど、他地域の障害者と交流する支援を続けています。

◆仮設住宅入居者支援

仮設住宅入居者が体を動かし前に進めるよう支援することを目的に、交流事業やスポーツを通じた復興支援活動を行っています。

仮設入居者に対し、閉じこもってしまいがちな仮設住宅での生活から、外に出て住民同士の交流や健康づくりへの参加を呼びかけ、ストレッチ体操教室や吹き矢教室、カラオケ教室等を開催しています。また、手芸教室等の他団体主催のイベントでは、参加を呼びかけるチラシやポスターづくりを担当し、開催される交流事業を支援しています。

平成24年10月に石巻専修大学陸上競技場において仮設入居者参加による「SMILE 運動会」(玉入れ、障害物競走、3人4脚水鉄砲対決、綱引き、リレー等の競技)を開催しました。

効果・成果

- ・ 被災した子どものケアを兼ねた各種の取り組みが、子ども達の成長や思い出づくりに役立っていると思います。
- ・ 各種の交流事業の開催が、参加者の地域コミュニティの形成の場となっています。

今後の取組

- ・ いつでも、どこでも、誰にでも、スポーツ活動が気軽にやれる環境を整備し、その機会を提供していきます。
- ・ 交流事業については、仮設入居者による自主運営に向けて支援していきます。
- ・ コミュニティを形成する手段としてスポーツの果たす役割は大きいと考えます。「スポーツの力」を信じて、復興活動の一助となるよう前に進んでいきたいと考えています。

仮設団地 市民運動会



全焼した母校でキックベース



◆問い合わせ先

特定非営利活動法人 石巻スポーツ振興サポートセンター
(電話番号 0225-95-2923)
(E-メール info@i-support.or.jp)

地域コミュニティの再生を目指して お茶のみサロン あがらっしえ

作成年月日

平成25年 2月 8日

◆取組市町村・団体名

登米市社会福祉協議会

◆取組地域

南方1・2期仮設住宅, 若者総合体育館仮設住宅, 横山1・2期仮設住宅,
横山幼稚園跡地仮設住宅

◆キーワード

地域コミュニティ

◆活動の経緯と目的

震災前にあった地域コミュニティの再生に少しでも力になればという思いで、平成24年5月23日～南方仮設住宅、平成25年1月8日～若者総合体育館仮設住宅、同年1月22日～横山1・2期仮設住宅、同年1月31日～横山幼稚園跡地仮設住宅でお茶のみサロン「あがらっしえ」を開催してきた。

◆取組内容

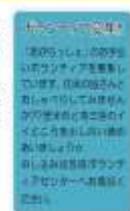
いきいき健康体操を取り入れ、住民の皆さんの健康管理にも気を配った内容にした。主な取り組みとしては、市内で喫茶店を経営している方と協力し、本場のコーヒーを提供し、お茶以外にも楽しめ、高齢者以外の方にも足を運んでもらえるようにした。また、夏には南方仮設住宅でミニ夏祭りを開催し、本会が事業推進している市内中高生による「Jボラ体験隊」にも協力いただき、昔懐かしい夏祭りを開催することが出来た。それら以外にも季節にあった折紙や健康教室など、多種多様なプログラムで住民の皆さんには楽しんでいただけている。



毎月開催しております「あがらっしえ」ですが、11月より南方仮設住宅第1期集会所では毎月第4水曜日のみの開催となりました。年が明けて1月からは津山町域において同様のお茶のみサロンを展開していきますので、ぜひご参加ください。

- ◎南方仮設住宅第1期集会所 … 12月26日(水)
- ◎津山若者総合体育館談話室 … 1月 8日(火)
- ◎津山横山仮設住宅談話室 … 1月22日(火)
- ◎津山公民館(横山幼稚園跡地)… 1月31日(木)

※いずれも10時～12時まで
となっております。どこの会場に出
向いても構いません。交流し
ましょう!!



南方仮設住宅 お茶のみサロン

あがらっしえ

毎月第2・4水曜日に開催している「あがらっしえ」ですが、毎回評判が良く、40名前後の住民の皆様にご来場いただいております。これまでは旬の話題を提供できるように6月は『笑顔』が元気の源になれるように豊里町のボランティアさん（佐藤仁氏）によるDVD鑑賞会、7月は夏バテ予防として登米市社協職員による熱中症に負けない体づくり、8月は古き良き時代にタイムスリップし、ひと夏の思い出づくりの縁日遊びを開催してきました。

参加された皆様から「楽しかったよ、また来るね」の言葉をいただくとうれしく思い、あの時のことを忘れるのではなく、ひと時の『楽』を感じていただけるように企画・運営しているので、事業者として冥利につきます。

今後は男性ならではの腕前を発揮してもらう『男の料理教室』や市内ボランティアによる演芸大会などを企画していきますので、乞うご期待ください!!



↑いつもこのように笑顔が絶えないお茶のみ会となっております。



縁日遊び

市内中高生によるボランティア体験を希望した『Jボラ体験隊』の皆さんにお手伝いをいただき、子どもから大人まで楽しめる内容で、90名近い人が集いました。



↑毎回行っている『いきいき体操』に加え、じゃんけんゲームやなぞなぞなど、今話題の『脳トレ』にチャレンジしました。

南方仮設住宅 お茶のみサロン

あがらっしえ

5月23日、南方仮設住宅第Ⅰ期集会所を会場にお茶のみサロン「あがらっしえ」をオープンしました。

震災から1年3ヶ月が経過し、未だに心の傷が癒えず日々の生活に不安が募る毎日をおくっている住民の方々へ少しの時間でもリラックスできて笑顔が見られるひとときを過ごせるよう企画し、初回は住民の方々や生活支援員、ボランティア約60名が集い、迫町で喫茶店を営んでいる「貴いちご」オーナー加納栄子さんにもご協力をいただき、焙煎された本格的なコーヒーを味わいながら大いに笑い楽しんでいた様子がうかがえました。

今後は季節に富んだ内容や困りごと相談などを取り入れ、毎月第2・4水曜日に定期開催していきます。



← 支援員さんは親身に
なつて耳を傾けてくれます。



にっこり笑顔でピース！みなさん笑顔が素敵です☆



↑ いきいき体操で
心も体もリフレッシュ

あがらっしえ ボランティア&イベント企画募集!

住民の皆さんとお茶のみ話やサロンのお手伝いをしてくれるボランティア、イベント企画をお持ちになってくれるボランティアを募集しています。興味のある方はボランティアセンターまでご連絡ください。

TEL 0220-21-6310 (担当: 柴山・鎌田)

◆問い合わせ先

登米市社会福祉協議会 (0220-21-6310)